

歴史学研究連絡委員会報告

—歴史情報資源研究の振興について—

平成3年4月24日

日本学術会議

歴史学研究連絡委員会

この報告は、第14期日本学術会議歴史学研究連絡委員会の審議結果を取りまとめて発表するものである。

- 委員長 弓削 達 (日本学術会議第1部会員・フェリス女学院大学学長)
- 幹事 竺沙 雅章 (同第1部会員・京都大学文学部教授)
- 中田 易直 (同第1部会員・中央大学名誉教授)
- 西川 正雄 (東京大学教養学部教授)
- 委員 黒田 俊雄 (日本学術会議第1部会員・大谷大学文学部教授)
- 津田 秀夫 (同第1部会員・関西大学大学院講師)
- 山中永之佑 (同第2部会員・大阪大学法学部教授)
- 大石嘉一郎 (同第3部会員・明治学院大学経済学部教授)
- 浅香 正 (同志社大学文学部教授)
- 勝村 哲也 (京都大学人文科学研究所助教授)
- 辛島 昇 (東京大学文学部教授)
- 川上 涇 (東京国立文化財研究所名誉研究員)
- 古賀 登 (早稲田大学文学部教授)
- 所 理喜夫 (駒澤大学文学部教授)
- 野口 鐵郎 (筑波大学歴史・人類学系教授)
- 藤原 彰 (女子栄養大学栄養学部教授)
- 三上 昭美 (中央大学文学部教授)

1 学問研究の発展のためには、学術情報システムの整備が不可欠であり、自然科学、人文科学の分野においてその作業が急速に進められている。しかるに、歴史学界の現状を見ると、著しく立ち遅れており、そのため種々困難な状況が生じつつある。

(1) 近年、国内各地における地域史研究が一段と活発化し、また中央・地方の公共団体・企業等による情報活動がますます盛んであるにもかかわらず、それらにかかわる学術情報システムの整備が著しく遅れている。そのため、地域史に関する資料情報と研究の成果は全体的把握が困難な状況になっており、共同利用に供される状況にはなっていない。また近年、諸外国において、日本の近代化過程の研究に関心が高まっているが、これらの研究は、日本の歴史を地方の歴史との関連において捉えようとする傾向が顕著である。今日、時代の要請となっている地域の活性化のためにも情報システムの構築をふまえた地域史研究の深化が急務である。

(2) 明治以降、日本人の海外進出はまことに顕著なものがある。この間に海外の諸民族、諸国と、友好・敵対両面を含めて様々な関係を持ってきているのであるが、海外とくに中国、朝鮮、東南アジア、太平洋地域において日本人に關係ある諸資料が、第2次世界大戦後公私の機関に死蔵されたままになっていたり、海外に持ち去られあるいは海外に遺留されたままになっていて、それらの情報を組織的に調査収集する機関がないまま今日に至っている。

これらの調査収集が十分に科学的に行われなかったことが一つの原因となつて、対アジア優越感という日本人の歴史意識の歪みを矯正できず、また、アジア・太平洋地域の住民の日本人に対する警戒的評価をかえって悪化させ、アジア・太平洋地域の平和確立の障害になっている。近年、それらについて調査可

能な状況が生まれつつあり、これに早急に着手することが必要である。

(3) 地域史研究はヨーロッパ各国において多年の研究の歴史をもっており、それらがすでに多くの成果を生み出している。これらヨーロッパの地域史研究の方法を学ぶことも不可欠である。

それと同時に、近世以降とくに明治以降の日本人の対西洋観、対アジア観を表現するあらゆる種類の情報資源を、集積、整理、分析する必要がある。その反面、ヨーロッパ各国人のアジア観、日本観を表現する各種の史資料を蒐集、整理、分析することが今ほど必要なときはない。このような科学的基礎研究なくして日本の国際化はありえないからである。このような基礎研究は、日本と世界との関係を中心とした世界史研究に道を開くことになる。

近年の情報科学の発展は、コンピュータの利用によって、上述の諸資料の整理・保存並びに研究のための効果的な活用を可能にするに至った。

2 歴史学は史料学・史料論を基礎にして成立する。したがって、史料の収集・整理とその活用が、歴史研究を左右する。近年の歴史学研究の発展は、研究の深化と研究分野の多様化にともなってさまざまな資料の史料化を必要とするに至っている。必要な情報を得るためには、資料の背後に隠された情報、目に見えない情報を捉えなければならないが、そのためには歴史情報資源の活用が是非必要である。ここにいう歴史情報資源とは、文献資料だけではなく、環境・伝承・慣習・行動、物資料・映像資料・音響資料など、歴史にかかわる情報をもつ文献以外の諸資料を含む。コンピュータの発達と普及はそれらの資料の収集・整理を容易にし、一度に大量の史料を多角的に分析・研究することを可能とした。

情報研究は、昨今の人工的システムの開発によって長足の進歩をとげているが、歴史研究にかかわる資源研究部門では著しく立ち遅れている。歴史情報資源研究は、中央・地方の博物館・史料館・文書館・文献センター等との協力によっ

て上記の情報諸資源の活用をはかり、世界各地における日本関係、アジア関係情報資源を蒐集・整理・分析することによって世界史における日本の位置と役割を明らかにし、歴史研究の発展に貢献しようとするものである。

- 3 本委員会は、このような認識に基づいて、歴史情報資源、なかんずく内外における地域史を含めた史資料に関する組織的な研究と調査を行い、これを学界一般に公開するとともに、研究上の情報を提供し、広く内外の研究者のための共同利用が可能な歴史情報資源研究センターを設置することを強く期待するものである。